

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290600034		
法人名	社会福祉法人いわみ福祉会		
事業所名	グループホームモモ		
所在地	島根県江津市敬川町1230番地1		
自己評価作成日	R7年1月15日	評価結果市町村受理日	令和7年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号
訪問調査日	令和7年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

GHモモは行動理念「利用者・家族との繋がり、地域との連携を大切に笑顔ある居場所を作ります」を掲げ利用者一人ひとりの思いにしっかり寄り添い、楽しく安心して心身共に活性化させる生活を送って頂けるようお手伝いさせて頂いています。お一人ひとりの思いに寄り添いながらゆつくりと関わり、個々の生活スタイルを把握し、その人らしい生活が維持できるよう配慮しています。ご利用者様の意向に合わせ活動提供したり、季節ごとに行事を企画し生活に張りが持てるよう支援しています。ご家族様、地域の方々の協力を頂き、地域活動にも参加し繋がりが開かれた施設作りにコロナ組んでいます。職員は外部研修や内部研修に参加しスキルアップに努め、専門性を持ってケアできるよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の法人は多くのサービスを展開しており、デイや小規模の定員を減らすなど全体としての動きがある中、グループホームは昨年から1ユニットに縮小して業務を継続している。利用者の入れ替わりがあるが、職員には変更が無く雇用は安定している。平均介護度は比較的軽度で看取り対象者はいないが、母体に特老があるため重度になっても対応が可能であることが家族の安心に繋がっている。少し前にコロナウイルス感染者が出たこともあり、小規模と併設しているものの、協力体制はとりにくく、グループホーム独自の運営が続いている。そのような中でも、コロナ禍で絶たれていた地域との交流が徐々に再開されつつある。行事や日頃の活動の様子がよくわかる資料を作成し、運営推進会議で報告・話し合うとともに、こうした情報を地域へ発信し続けることで、地域からの情報を得るなど関係性の継続に努めている。今後も、アットホームな雰囲気の中で穏やかに生活できるように、精神面の刺激になるような取り組みに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議や部内研修にて行動理念、事業計画等の確認を行っている。	法人の理念を元にした行動計画がある。年度初めには会議や研修で事業計画を周知するようにしている。業務全般、利用者、職員に分け年度目標を作成している。職員は外部評価に合わせて個々に評価をするようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	消防訓練では地域の方に参加頂き、コミュニティ行事には作品展示に参加、また地区の秋祭りにも参加し地域の方との交流を図っている。近隣の保育所は毎年七夕時期に園児の訪問があり交流機会がある。	地域活動は段々と戻りつつあり、秋祭りの際は神輿を施設前で出迎えた。保育所との交流も玄関先ではあるが続けている。ボランティアの受け入れはまだだが、介護職員養成の研修では講師として関わっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内の研修会に出向き介護、認知症の研修等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い報告・意見交換を行っている。会議内容は職員と共有しサービスに繋げている。	利用者家族、コミセンセンター長、他関係者、他のグループホームの管理者、地区駐在所、包括の参加で定期に開催。利用者状況に行事、研修、事故等の報告を行い意見交換に繋げており、地域からの情報を得る場としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員のメンバーになって頂き、会議等で意見頂き協力関係を築いている。	運営推進会議には毎回包括からの参加がり、専門的立場から助言を得ている。生活保護担当課からは年に1回面談があり情報共有している。あまり多くはないが申請を出しに市に出向いたり、認定調査でも関わりがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回委員会を開催し、不適切ケア防止目標の取り決め、実践の振り返り等を行っている。また定期的に部内研修を開催し身体拘束適正化に取り組んでいる。	委員会ではセンサーマットの使用者について適した使い方になっているか、必要性和共に検討している。虐待、接遇と合わせて外部、内部の研修に参加し意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し3ヶ月に1回会議を開催。虐待についての確認を行い不適切ケア防止への取り組みも同時に行う。また部内研修も定期的に開催している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体の研修にて職員へ周知、実施を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様には文章・口頭にて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の広報誌を発行しご利用者様の様子等をご家族様にお伝えしたり、面会やお電話の際にご要望等を伺うようにしている。	地元からの入所者が殆どで面会も多い為、その都度日頃の様子を伝えている。遠方の家族には便りを送っている。年2回グループホーム独自の便りを作成して送っており、あわせて意見を聞く機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やミーティングにて職員の意見を聞き、定期的に行われる運営会議で話し合い、議論を設けている。	年に2回、1回は管理者ともう1回は法人の施設長との面談が行われている。月1回のミーティングや毎日の引継ぎでは意見を求めており、引継ぎノートを利用し、業務変更できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のメンタル面も含め、年2回の面談機会を設ける、また自己申告制度等も活用し働きやすい職場作り等に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実態と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、定期的な内部研修の機会を設け個々のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や部会等の参加により他施設職員と交流、情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意向を確認しながら本人のペースに合わせゆっくりと関わりを持ち信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の思いを受け止め、安心してご利用して頂くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様のご要望に耳を傾け、状況や場面に合った支援が提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自身で出来る事はご自身行って頂きながら個々の残存機能維持に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者一人一人に担当職員を設け、随時家族と相談・連絡等の体制を取っている。外泊や面会も緩和し、ご利用される方(外泊・面会)も増え関係性の継続に繋がっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室での面会も再開し、面会機会も増えた。家族以外の面会も可能としている。	コロナウイルス感染症が5類になってからは、部屋で20分の面会ができています。家族と外出し買い物に行ったり、定期的に外泊する方が増えている。以前から地域の訪問美容も利用しており、カットしてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	活動や行事等を通して利用者交流に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談・支援等を求められた際には可能な限り応じる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	充分な個別の時間は設けられないが、日々の様子や会話から本人の思いや意向をくみ取るよう努めている。	日々の家事に関わる方は少なくなっているが、行事などの際には調理を楽しむ方がいる。また、外出先に人が多い場合は頭の中が混乱する方が多い。このため、外出先で穏やかに過ごせる時間帯での外出を望む方が多い。そうした個々の思いを計画に反映させるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントをしっかり行い全職員情報共有、周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で様子観察を行い状況把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を行い、現状に即した計画書を作成している。	モニタリングを6ヶ月に1回まとめている。利用者本人、家族の参加での担当者会議はできていないが、家族には電話や面会時に要望を聞き計画変更に繋げている。	利用者本人、家族などできるだけ多くの参加者で担当者会議を行うことで、関係性を高め、現状に即した計画作成に繋がるよう取り組んでいただきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的なミーティングや記録、申し送りノート等を活用し情報共有を行い、計画書の反映に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の意向に添えるよう柔軟な対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事等に参加し、一人一人がその人らしく暮らせるよう心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の意向にそって対応している。2週間に1回協力医の往診があり、状態報告等を行っている。	家族対応で今までのかかりつけ医を続けることも、往診可能で急変時等にも指示が仰げる施設の協力医に変更することもできるが、全員が対応が早い協力医に変更される。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時、状態変化時は看護師又は管理者に報告しMCSツールを利用し協力医と常に情報共有を行っている。速やかな情報共有と指示により適切な受診や看護が受けれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はご利用者様が安心して治療できるよう、ご家族様や病院関係者と密に情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化対応・終末期ケア対応について事業所としての対応について説明を行っている。ご本人様やご家族様の思いに寄り添いながら主治医と連携を図り、事業所としてできる限りの支援を行っていきたい。	入浴などの設備面で重度への対応が難しいこともあり、入所時にも介護度が3以上になった時にも特老の申し込みの話をしている。同法人内に特老がありスムーズな移行が可能で家族の安心に繋がっている。平均介護度も軽く、現在看取り対象者はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の研修を年1回行い、全職員が緊急時対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施し緊急時の対応がスムーズに行えるよう取り組んでいる。また災害時についても訓練等を行い避難場所・避難経路の確認を行っている。	海、山、川から距離があり平坦で自然災害には合いにくい場所にある。小規模と続いているので主に火災対応の訓練を昼夜の想定で定期に実施。洪水、地震への対応や救急法の訓練も行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に敬意をわすれないよう言葉遣い、声掛け等に気をつけ対応している。介護職員としての接遇マナーについても年1回研修を開催し再確認している。	職員の入れ替わりがなく利用者との関係性が近くなりすぎて、なれなれしく感じる場面が見られる。周りからどのように見えるかを考えるようにし、定期的な研修で繰り返し取り組むこととしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が自己決定できるよう常に選択肢を提案する声かけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の思いを確認し活動参加を促したり、個々のペースに合わせて活動参加を促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等は自分の好みで選択して頂いている。選択が難しい方は選択肢が持てるような声かけを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好については細かくアセスメント行い対応している。誕生日には本人の好きなメニューを直接聞き取り食への楽しみや興味が持てるよう支援している。	食材は配達を利用し年間でメニューを作り3食作っている。野菜等の下準備はする方がおられるが、調理に関わる方は少ない。食事を楽しめるよう、食べやすい食材を選ぶようにしており、調理の際の音や臭いが刺激になるよう考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を日々記録し状況把握を行っている。食事摂取量が少ない方には栄養補助食品等を利用したり、摂取量が少ない原因について随時検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。自分で出来る方は自分で行い、介助が必要な方は部分介助にて実施。夜間は義歯の洗浄を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を行い個々の排泄パターンを把握している。介助が必要な方は、パターンを把握し誘導等を行っている。	オムツの方はおられず、紙パンツにパットの方が殆どで自立の方も多い。何らかの介助がいる方が増えてはいるが、夜間はポータブルでも昼間はトイレを利用するよう、個々に合わせた対応としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に合わせた対応を行っている。便秘対策としてヨーグルトや牛乳等もメニューに取り入れている。また、定期的な運動も行い予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴促しは毎回ご本人様の意向を確認して行っている。気持ち良く入浴して頂けるよう声かけや環境(温度)にも細かく気を配っている。	やや大き目の家庭浴槽で、またげない方はシャワー浴で対応している。週に2回入浴できるように声がけしている。拒否の方もいるが、時間帯や声がけを工夫してゆっくりくつろげるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息は個々のペースに合わせて対応している。夜間眠れない方は、原因について多職種で検討しできるだけ安心して入眠できるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報も含めた利用者情報をファイリングし、職員がいつでも確認できるようにしている。服薬についてはダブルチェック、介助時は誤薬がないよう声出し確認を行い対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や本人ができる事出来ないことを把握し、役割が持てるよう活動提供を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事等でドライブに出かけたり、春や秋等季節的に過ごしやすい時に屋外散策等を実施している。	施設周辺を散歩したり、裏庭が広く草木等があるため自然を感じながら、外でお茶したりすることが多い。外出行事では数人に分かれて、花を見に行ったり滝を見に行ったりとドライブを楽しんでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、ご家族様ご本人様の確認をとり事業所で管理しているが、現金を持ちたい方はご家族様に相談し預り金以外で管理している方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持しておられる方もおられ自由に家族や友人に連絡を取っておられる。また、所持(携帯電話)しておられない方もご希望があれば随時対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用場所は季節ごとに飾りや壁画を取り入れ季節感を味わって頂いている。また、ホール中央にキッチンがあり食事作りの音や匂いを感じられ常に五感が刺激されるように配慮している。	中央ホールからは外がよく見え庭の草木から季節の変化が見える。天井が高く開放感があり、ソファなどに座りくつろげる。窓からも陽が入り明るく静か。床暖がある為冬も心地よい暖かさがある。長く少し傾斜のある廊下が続くため外を見ながら歩行訓練ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部はソファや椅子を設置し、くつろいだり仲の良い友人と過ごせるよう環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使っていた馴染みの物を持ってきて頂くよう声かけしている。	収納場所はないが、大き目の家具を持ち込む方は少なく軽めの引き出し式のケースの方が多い。テレビ、イスなどを持ち込み、家族写真や懐かしい置き物を置いたり、くつろげるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部には手すりが随所設置しており、居室内部も手すりやマットなど個々の状態に合わせて対応している。		